

女性起業家支援塾2011

さまざまな分野の講師から起業に必要な知識や融資制度などについて学ぶ「ムーブ女性起業家支援塾」に22名の方が参加し、下記の内容で開催いたしました。

アンケートをふまえ個人面談を実施

今年度は9月に過去10年の卒塾生へのアンケートを実施しました。これまでに起業できた方は約9%（アンケート送付数204件、回答数43件）と高いとは言えず、このアンケート結果をふまえ、今回の起業家支援塾は1人ひとりに対して、より細かな対応が出来るよう中小企業診断士による個人面談を行いました。これまでやってきたことに自信を持った方や、アドバイスによって視野が広がったことで今まで考えていなかった可能性が見えてきた方など起業に対する課題や問題点が明確になり、受講生にとって貴重な時間となりました。

北九州商工会議所と共に共催で支援を充実

今年度から北九州商工会議所との共催により受講生へのフォローアップや創業支援がさらに充実しました。

起業実現へつながることを応援

他の受講生との交流は、お互い刺激を受け、やる気につながり、起業のための人脈形成に役立つ良い機会となりました。

最終日には、受講生の皆さんから素晴らしいビジネスプランの発表がありました。ムーブでは今後もそのプランが実現できるよう応援していきます。

講座全体を通して、「役立つ内容だった」「楽しい内容が多く、あつという間だった」「講師の説明がわかりやすかった」など満足度は高く、起業を目指す女性にとって夢や目標を達成するための有意義な講座となりました。



日程	内 容	講師(敬称略)
11月5日(土)	ビジネスプランの考え方	佐々木 茂(中小企業診断士)
	お金に関する基礎知識	早崎 善宏(中小企業診断士)
	起業家(卒塾生等)からのアドバイス	小嶋 寿見子(㈱セルフ取締役会長)他
11月6日(日)	中小企業診断士による個人面談	佐々木 茂、園田 久恵、齊藤 久美、千葉 真弓(中小企業診断士)
	融資のポイント	早崎 善宏(中小企業診断士)
	ライフデザインの考え方	俵 純子(社員教育接遇マナー研究所代表)
11月12日(土)	ビジネスプランの作成(前半)	佐々木 茂、園田 久恵、齊藤 久美、千葉 真弓(中小企業診断士)

日程	内 容	講師(敬称略)
11月19日(土)	ビジネスプランの作成(後半)	佐々木 茂、園田 久恵、齊藤 久美、千葉 真弓(中小企業診断士)
	講演会「キャリアビジョンを実現する時間管理術」	佐々木 かおり(㈱イー・ウーマン代表取締役社長)
	資金調達の基礎知識	北九州商工会議所、北九州市、日本政策金融公庫
11月20日(日)	ビジネス成功のためのポイント	麻生 祥三郎(オフィス未来代表)
	ネットを使った情報発信	鐵尾 一郎(鐵尾芸術製作所代表)
	ビジネスプラン発表会	佐々木 茂(中小企業診断士)



ムーブ読書会 読んでみよう、話してみよう 『KEKKON』

コーディネーター 力武 由美(ムーブコーディネーター)

平成21年度ムーブ発行の『ジェンダー白書7 KEKKON 結婚-女と男の諸事情』を読み、意見交換し、男女共同参画についての理解を深め、性別役割分担から解放された意識を、市民に発信します。

第1回目は、コーディネーターによる、結婚の概念や実態の変化、現代社会が抱える少子化、晚婚化等の問題についての解説が、第2回目は参加者による婚姻制度、結婚市場についてのレポート作成と発表を行いました。



白河 桃子さん講演会 「婚活時代から見る女性の働き方と結婚」

講師 しらかわ とうこ 桃子さん(ジャーナリスト)

読書会の一環として『ジェンダー白書7 KEKKON 結婚-女と男の諸事情』の執筆者の1人であり、「婚活(結婚活動)」という言葉の提唱者でもある、白河桃子さんの講演会を行いました。

受け身で結婚できた時代は終わり、現在は、積極的に動かないと就職も結婚もできなくなる時代となっている。「婚活」という言葉が流行し、時代が変わっても、女性たちの中には、「夫に養ってもらう」という昭和的結婚観から脱却できない人も多く、結婚出産後も働いて欲しいと思っている男性との間に意識の差があること、このため結婚を希望する女性は、資格や技術を身につけ、自ら生計を立て、仕事を続けていく人材になる必要があることを強調されました。

おはなし会

11月26日(土)に1階図書室で「おはなし会」を行い、子どもも大人もみんなで本の世界を楽しみました。全5回開催します。



ムーブ学生プロジェクト

ムーブ学生プロジェクトは、男女共同参画社会の理念を理解し、グローバルな視野で考え、地域に根差した主体的な活動ができる次世代リーダーを、地元の大学と連携・育成するために平成23年度から立ち上げたものです。

今年度は、北九州市立大学の地域創生学群などの学生5名が参加し、421Lab.(北九州市立大学地域共生教育センター)と連携しながら、いろいろな活動を行いました。

▶ムーブフェスタ

6月8日(水)の小倉駅前でのピラ配りから始まり、7月9日(土)の乙武洋匡さんの講演会では、受付や誘導の他、ステージに上がって質問をしました。

また、7月24日(日)のイベントでは、運営のお手伝いや、渡部陽一さんトークショーのシナリオを考えました。

学生のコメント-----

ムーブフェスタのピラ配りが初めてのプロジェクトの参加でした。イベントをお手伝いする中で、講演された方々の話に各自それぞれ考え、感じるところがありました。このムーブフェスタは私にとって忘れる出来ない大切な思い出となりました。



小倉駅でのピラ配り

▶佐々木 かおりさんインタビュー

11月19日(土)

学 生 行動を起こす勇気はどこからくるのか?

佐々木さん 私は勇気という言葉は使わない。行動は、起こすか起こさないかのみ。勇気がないと言っている時、本当は何が足りないのか分析してほしい。足りないのは勇気でなく、勉強不足、準備不足ではないだろうか。失敗を恐れるという人がいるが、行動をしないことが一番の失敗。やってみてダメならそこから考えればいい。その学びが明日の道をつくら。

学 生 WLB(ワーク・ライフ・バランス)を実現するためにはどうすればいいと思うか?

佐々木さん 20代はまずはとことん働き、学び、高品質の仕事の成果を安定して出せるようにしてほしい。自分以外こんな最高にできる人はいないというところまで熱中して仕事をすることを、まず考えてみてほしい。あとは、「自分を予約する」手帳術にあるように、時間管理。



▶ふれあいフェスタ

11月27日(日)に西日本総合展示場で行われた「ふれあいフェスタ」では、デートDV啓発活動として冊子やチラシなどを配布しました。その中で幅広い年代の方とお話をることができ、デートDVを知らないという人にも説明し分かっていただきました。



北橋市長とのランチは緊張しましたが、市長がとても気さくにお話ししてくださいましたので楽しい時間が過ごせました。



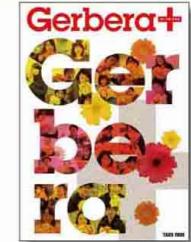
▶冊子「Gerbera+」刊行

今年度学生が行った活動を通して学んだことを、冊子にすることになりました。どの項目を入れるのか、どのような内容にするのか、デザインなど学生が主体となって何度も何度も編集会議を重ね、みんなが納得のできるものに仕上げています。

学生のコメント-----

「男女共同参画という少し取扱い難い、けれど重要なこのワードを、社会に出る一歩前の今だからこそ若い世代に知ってほしい」。その思いを形にするために現在フリーペーパーの作成をしています。

読者の立場に立って考えること、伝えることの難しさを感じながらも楽しく取り組んでいます。



▶市長とランチ

8月24日(水) 12:00~13:00

学 生 社会に出ると年収の差や、上の役職になるにつれて女性の割合が少ないなどの数値を目の当たりにし、期待や不安をみんな抱えているのですが。

市 長 優秀な女性社員がたくさん入社し、頑張ることで、会社の成績がよくなることを会社が実感すると、世の中が一気に変わっていくと思います。

内閣府のデータでは、女性が正社員として1つの職業で仕事を続けていくと生涯所得が2億8千万円位あるが、結婚や子育てをきっかけに一旦退職しパートになった場合、生涯所得が約8割減少し、約5千万円になると言われています。働きながら子育てや親の介護ができる環境を作らないといけません。

学 生 若い世代の人たちに男女共同参画について認識してもらうにはどのような働きかけが有効だと思いますか?

市 長 男女共同参画に限らず何事も時代が追いついてくれるまで辛抱強く我慢しないといけません。わかりやすいデータを示して誰が考えても何とかしようという問題意識を芽生えさせるなど、地道に活動して行くことが大事。また、子どもの時にどのように学校で学んでもらうかということも大きいです。現場の学校教育でもう少し工夫できればとも思います。

学 生 学生が市と連携して活動していることについて、ご意見やアドバイスをいただきたい。

市 長 若い世代の視点というのは非常に大事で、学生と市役所が連携をして色々チャレンジしてみるとというのは私たちにとって非常にいい刺激になるし、大変ありがとうございます。

第5回「北九州市ワーク・ライフ・バランス表彰」受賞企業等決定!!

少子高齢社会において、子どもを産み育て、男女がともに働く喜びを感じることができる社会の実現は、企業と行政が協働で取り組むべき重要な課題です。誰もが多様な働き方や暮らし方が選択でき、活力ある豊かな社会を実現するため、本市では、子育て支援や男女がともに働きやすい環境づくりなど、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の推進に取り組む企業・団体等（個人を含む）を表彰し、その取組内容を広く皆様にお知らせしています。この度、第5回の表彰企業等を下記のとおり決定し、去る11月22日北九州市庁舎にて表彰式を行いました。

【企業・団体部門】

市長賞

有限公司 ゼムケンサービス

小倉北区片野3-7-4
社員数:11名（うち女性8名）
積極的な女性の活用とチームワークを大切にした柔軟な働き方ができる職場風土の確立

市長賞

福岡県済生会八幡総合病院

社会福祉法人
恩賜財団済生会
八幡東区春の町5-9-27
職員数:628名（うち女性446名）
院内保育所の設置、休暇取得促進やメンタルヘルス対策の充実など働きやすい職場環境の整備

奨励賞

社会福祉法人 北九州あゆみの会

戸畠区汐井町1-6
職員数:197名（うち女性128名）
充実した仕事と子育ての両立支援制度と活発な研修による人材育成の取組

「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーン」を実施しました

北九州市ワーク・ライフ・バランス推進協議会と北九州市では、11月を「北九州市ワーク・ライフ・バランス推進月間」として、ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）の意義や必要性を広く市民や市内事業所等に理解していただくため、キャンペーンを実施しました。

今年度は応援ソングを作成し、市民の皆様からタイトルを募集するなど、様々な広報啓発事業を行いました。

『明日へのハーモニー～ワーク・ライフ・バランス～』

作詞:大内義昭+北九州市民の声
作曲:大内義昭 編曲:大内義昭 有田宏

朝一番「おはよう!」と声かける 家族の幸せ願い
「ありがとう!!」心込めてお互いに言葉で声掛け合おう

暮らしを支えてる一人一人の笑顔
瞳 目をそらさずに

*Oh! ワーク・ライフ・バランス
繋がってるよ さえ合う力
ワーク・ライフ・バランス
仕事と家族どちらも大切だ
それがワーク・ライフ・バランス
(略)

Oh! ワーク・ライフ・バランス
生かされてる現代(いま)共に歩いて行こう
ワーク・ライフ・バランス
仕事と生活ふたつのハーモニー
それがワーク・ライフ・バランス
(略)



教育評論家尾木直樹さんを
イメージキャラクターに起用
© 2011 IsamuKurosa/bestellers

応援ソングは、ホームページ
(http://wib-kitakyushu.jp)、
またはこちらから試聴できます。



カエル! ジャパン
Change Japan
変えよう! 働き方!
はじめよう! 充実生活
北九州市ワーク・ライフ・バランス推進キャンペーン



JR小倉駅で街頭啓発

2011年度 女性への暴力ゼロ運動



ムーブでは、昨年に引き続き、国の「女性に対する暴力をなくす運動」(11月12日～25日)、「女性に対する暴力撤廃国際日」(11月25日)に連動し、DV(ドメスティック・バイオレンス)や性被害、セクシュアル・ハラスメントなど女性への暴力をなくすための特別イベントを実施しました。

11月1日(火)～30日(水) パネル展示

ムーブ1階交流広場内

「2011年 わたしたちの街で起こった女性への暴力」パネル展示

福岡県内で起こった女性への暴力事件(13件)の記事を1ヵ月間パネル展示しました。

11月11日(金) 16:00～17:00

福岡県内のDV防止街頭キャンペーン

ムーブでは関係機関や小倉北警察署等と連携をし、小倉駅で市民の皆さんにDV防止キャンペーンのチラシ、ノベルティを配布しました。

11月20日(日) 14:00～16:00

特別講座「性犯罪被害者に寄り添うということ」

福岡県は性犯罪率が全国に比べて高いことから、今年度は性犯罪被害者をテーマとしました。
参加者からは、「性犯罪被害者の半数以上が誰にも相談していないことに驚いた」など多くのご意見をいただきました。

第1部 「性犯罪被害者の心身と社会生活の回復へのサポートにおけるプロセス」

講師 NPO法人福岡犯罪被害者支援センター相談員 梅本 育恵さん

第2部 「犯罪被害者等基本法について」 講師 弁護士 小倉 知子さん

11月22日(火) 10:00～17:00

弁護士・相談員による「女性への暴力ゼロ!ホットライン」

共催 福岡県弁護士会北九州部会・北九州市配偶者暴力相談支援センター・北九州市DVに関する相談が最も多く、相談件数は過去最多の35件にのぼりました。

(財)アジア女性交流・研究フォーラムからのお知らせ

仁川発展研究院と交流協力協定を締結

2011年9月1日、仁川発展研究院(キム・ミンペ院長)を訪問し、交流協力協定を締結しました。

これを機に、共通課題に対する情報や、男女共同参画に係る共同啓発等を通じて、相互理解につなげていきたいと考えています。

詳しい報告は
<http://www.kfaw.or.jp/report/>
をご覧になれます。



ブラジル日系人JICA研修生がムーブ、フォーラムを訪問

平成23年9月28日、JICA(独立行政法人国際協力機構)の日系人研修生が当財団を訪問しました。地域活性化のノウハウ・知識・最新情報を学ぶために北九州市を訪れていた彼らは、当財団の事業説明やムーブの施設案内を通して、日本の男女共同参画に対する取り組みを学び、とても有意義な研修になったのではないかと思います。



Asian Breeze 63号発刊

特集 希望の村～虐殺を生き抜いた女性たちを支えるルワンダ人夫妻

大虐殺で、夫や子供、家族の多くを亡しながらも生き抜いてきた女性たちと、それを支えるルワンダ人夫妻の活動を、リポートしていただきました。

日頃、知見を得ることの少ないルワンダについて、女性のおかれられた状況と生きざまをリアルに感じとれる内容となっています。ぜひご一読ください。

お問い合わせ (財)アジア女性交流・研究フォーラム TEL.093-583-3434 FAX.093-583-5195
<http://www.kfaw.or.jp>

レディスモジからのおしらせ

テーマ 開館25周年記念講演会

「生きていくあなたのメッセージ」 ～災害と女性について～

女性たちの視点に立った支援や活動、さまざまな問題について講演していただきます。

日 時 平成24年4月15日(日)

13:30～15:00

講 師 評論家・コメンテーター

さんま 残間 里江子さん

対 象 一般市民どなたでも

定 員 300名(先着順)

参加費 無料

託児 あり(1歳以上就学前まで)申込み時にご相談ください。

申込み 3月3日(土)9:00から電話または来館にて受付。



北九州市立東部勤労婦人センター・レディスモジ

〒800-0051 北九州市門司区下馬寄6番8号

TEL.093-371-4649 FAX.093-371-4268

<http://kinroufujin-kitakyu.jp/moji/>

レディスやはたからのおしらせ

テーマ 開館35周年記念講演会

「エプロンをはずして夢の山」

女性としてエベレスト世界初登頂を果たした経験はどのようなものだったのか、夢を実現していくまでのプロセスと長年の登山活動を通じたユニークな体験について講演していただきます。

日 時 平成24年5月19日(土)

13:30～15:00

講 師 登山家 田部井 淳子さん

対 象 一般市民どなたでも

定 員 200名(先着順)

参加費 無料

託児 あり(1歳以上就学前まで)申込み時にご相談ください。

申込み 4月3日(火)9:00から電話または来館にて受付。



北九州市立西部勤労婦人センター・レディスやはた

〒805-0059 北九州市八幡東区尾倉二丁目6番6号

TEL.093-661-1122 FAX.093-661-2714

<http://kinroufujin-kitakyu.jp/yahata/>

指定管理者 (財)アジア女性交流・研究フォーラム